

## 8. 病院に着く前のお産

ごくまれに、陣痛をあまり感じずお産の進行に気づかない産婦さんがいます。特に経産婦さんでは、破水と同時に「いきみたい感じ」が出て急速にお産になる方もいます。

このような、「もしもの時」には慌てず次のように対応しましょう。

### (1) 自宅でのお産

#### ①人を呼びましょう

家族を呼ぶ、病院に電話をする、救急車を呼ぶなどしてください。なるべく一人で対応しないようにしましょう。

#### ②安全な場所へ移動しましょう

安全に出産できるような所へ移動し、体の下にバスタオルを敷きましょう。

#### ③赤ちゃんを受け止めましょう

赤ちゃんができるだけゆっくり生まれてくれるように、横向きになって息を吐き、いきまないようにしましょう。赤ちゃんが生まれたら、生まれた時間を確認しましょう。

#### ④赤ちゃんを泣かせましょう

赤ちゃんの鼻や口を拭きましょう。そうすると赤ちゃんは泣き出すことが多いです。もし泣かない時は、赤ちゃんを横向きに寝かせ、背中を下から上にさすってあげましょう。

#### ⑤赤ちゃんを冷やさないようにしましょう

赤ちゃんの体が濡れていると、どんどん体温が下がり危険な状態になりやすいです。部屋を暖かくし、しっかり体をタオルで拭いて水分を拭き取ってあげましょう。そして、赤ちゃんをお母さんの胸の上に、肌と肌が触れ合うよう直接抱っこしましょう。**臍帯は切らず、輪ゴムやひものようなもので結んで下さい。**また、胎盤は無理に出そうとせずに、救急隊員の到着を待ちましょう。胎盤が自然に出てきた場合でも臍帯は切らなくて大丈夫です。出てきた胎盤をビニール袋に入れて病院に持ってきましょう。

赤ちゃんが生まれるまでに、病院に連絡できなかった時や救急要請ができなかった時は、この時点で連絡して指示に従ってください。



## (2) 病院へ行く途中でのお産

病院へ向かう途中にお産になりそうな場合には、次のように対応しましょう。

### ①車を安全な場所へ止めましょう

駐車場や広い路肩など、安全な場所へ停車し、救急車を呼びます。動けるようなら、スペースの広い後部座席へ移動しましょう。赤ちゃんができるだけゆっくり生まれてくれるように、横向きになりましょう。

### ②赤ちゃんを受け止めましょう

赤ちゃんができるだけゆっくり生まれるように、息を吐き、いきまないようにしましょう。車中は狭いので、赤ちゃんを落とさないように受け止めます。できれば生まれた時間を確認しましょう。また、車内の温度を上げ、赤ちゃんが冷えないようにしましょう。

この後は「自宅でのお産」の③④⑤と同じです。

大変な状況ではありますが、なるべく落ち着いて対処することが必要です。緊急事態に備えて、病院へ行く時は清潔なバスタオルを数枚、車に積んでおきましょう。規則的な陣痛が来て、病院へ連絡してから入院の準備をしたり、上の子を実家へ預けに行ったり…というのも間に合わなくなる原因の一つになります。早めの入院準備や、ご家族の協力を得るようにしましょう。

特に、**前回のお産が早かった経産婦さんはさらに速くお産が進む可能性がありますので、早めの対応を心がけましょう。**

